めいろうこどもえん　６月園だより

２０１７年度 年主題　〈愛されて育つ〉

0･1･2歳児６月主題　「わくわくする」

月のねがい

◎さんびかや祈りのことばに心を合わせる
◎保育者の祈りに神さまを感じる
◎友だちや身近な物事に心を動かす
◎自然に触れて興味をもつ
◎晴れた日は外へ出て、光や風を感じる

3･4･5歳児６月主題　「不思議」

月のねがい

◎神さまが創られた自然の不思議さに目をとめ、感心をもつ
◎いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる
◎生活の中で、予想したり試したりする

今月の聖句「みよ。私は新しいことをする。今、もうそれがおころうとしている。」

イザヤ43:19

BC7世紀の預言者イザヤはイスラエルの民の滅亡を感知し、警告しました。「新しい事が起こる」とは、具体的にはどんなことだったのでしょう？　BC7世紀に、ユダヤは近隣のバビロニア帝国に占領され、捕囚の身となりました。BC4世紀に、ペルシャ帝国に変わった時、クロス王は自国へ帰国すること認めました。しかし、ローマ帝国になってAD70年、ユダヤ人は徹底的に滅ぼされ、約1900年間、国を持たない放浪の民となったことは歴史家ならずとも誰もが知っているところです。

さて、私たちが寄留している宇宙船地球号は永遠不滅の星ではありません。私たちが知っているだけでも、熊本で、東北で震災と津波の災害があったことは記憶に新しい事です。天災や戦争は絶えず起きてきました。いつの日か、この地球は、必ず跡かたもなく殲滅します。そのとき、生き延びる人は1人もいなくなるでしょう。私たちは、緊張をもってこの全滅から救われる方法を確立しておかなくてはなりません。

では、どうしたらこの破滅から救われるのでしょう。方法は無いわけではありません。天地宇宙を創造され、支配しておられる愛の神を信じ頼ることによって滅亡から救われ、肉体は霊体に変えられ、飲食や金銭の要らない、病も痛みも無い「神の国」へ移される事で、救いは完成します。

註:BC＝紀元前AD＝起源後　地球の壊滅と救いはヨハネによる黙示録をまとめました。

前理事長　池田公榮

６月の行事予定

１４日（水）	歯科検診(13:00より)
２４日（土）	家族の日参観・弁当日
２８日（水）	弁当日

７月の行事予定

１日（土）	夏祭り・弁当日（2.3 号）
４日（火）	海あそび・弁当日
７日（金）	七夕事業所訪問
１１日（火）	７月誕生会
15･16 日	お泊まり保育（年長児）
１９日（水）	１学期終園式(1号:午前保育)

～今年度テーマ　お話の世界「ガリバー旅行記」より～

6月に入りました。クラスの雰囲気、礼拝、朝の体操、延長保育と、子どもたちは、少しずつ園生活に慣れ、楽しめる雰囲気がでてきました。1学期は、いろいろなことをじっくり、ゆっくり取り組み、たくさんの経験をさせてあげたいと思っています。そして、この延長線上に2、3学期の行事へと繋がっていきます。ですから、1学期は特に大事にしたいものです。

さて、例年、1年を通してのテーマを決め、その意義を日々の保育に取り入れています。（今までは、「海賊」「スイミー」「ぐりとぐら」「世界」というテーマで行ってきました。）今年度のテーマは、お話の世界から「ガリバー旅行記」にしました。実は、「みんな大人にだまされた！」という本からのアイディアをもらったのです。これは、保育の中で、子どもたちを空想の世界や創造の世界に引き込ませ、子どもたち自身にいろいろな体験をさせていくという内容の保育士さん実体験の本です。ついに先日、こすもす組の数名の子ににこのガリバーを臭わす話しをしました。すると、「先生！もしかして○○なんじゃない？」「先生、実はめいろうって○○かもよ！」と口々に推理しています。まるで、名探偵のように…。

さあ、いよいよ子どもたちをガリバーの世界へ今年一年引き込みます。おそらく、お子さんから「骨・・恐竜とか」「ガリバーさん」という謎めいた話が出てくるかと思います。また、年長児のお泊まり保育もこのテーマに沿って組み立てていきます。保護者の皆さんもぜひ、子どもたちと一緒に楽しんでもらえたらと思います！！昨年は、太極拳の嚠師範、フランスのデザイナーパリ・ジェンヌさんが登場。今年もどんな出会いがあるのか楽しみです。

森　山

梅雨来たりなば夏はすぐそこに

今年の春は、柑橘系の果実が大豊作だったようですが、園内に出現するホタルもかなり賑やかでした。例年より羽化が遅かったのか、この時期まで見られるとは驚きでした。先日の奉仕作業では大変お世話になりありがとうございました。川まわりやアスレチックス周辺等とてもきれいになり、環境が整い感謝でした。いよいよ梅雨時。子どもたちにとっては、うっとうしい雨もまた楽しからずやであります。晴れた日も雨の日も、園内で繰り広げられる子どもたちの営みは、神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーで溢れています。

梅雨と言えばもちろん雨。雨と言えば水ですね。植物を形成する細胞の化学反応は水を媒介として行われますが、成長に必要なあらゆる物質も、また水によって生物体の内部に運ばれます。木々に水を提供し続けるのは「根」です。雨量が多く強風の少ない地に育つ木は、そびえ立つような大木でも、たまに強風が吹くと簡単に倒れてしまうそうですが、地下水が深いところにあるような場所では、根も長く伸びていき、幹をしっかりと支えられるのです。苦しみや試練に出会った時、それを乗り越えられる力を得るのは、安易な水の補給ではなく、深く根を伸ばすための心の葛藤や克己心ではないでしょうか

一般に「幼児教育」という言葉からは、「教育・指導によって何かができるようにする」というイメージがあるような気がします。保育者が主導して多くの課題を与え、計画された何かによって力が付いてくるというものです。確かに以前はこの様な“させる保育”が主流であったかもしれません。いやそれ以上に、潜在能力開発的な“見せる”保育も昨今見聞きします。早い発達や目に見える達成度に期待を寄せる親の願いも理解できますが、内面の育ちに寄り添うことが疎かになる危惧もあります。子どもを、自分の思いを持つ一つの主体として捉えるならば、自らの意志であそびを選び、創り出し、遊び込む中で得る自信や意欲というものこそ、真に大切にしたいものです。「一オンスの経験は一トンの理論にまさる」という言葉があります。「先生、見て！来て！」と、驚きや気づきを認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「わくわく」が興味・関心を広げていきます。

湿度が上がり、疲れも出てきて体調を崩しやすい時期でもあります。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝・早起き・朝ごはんで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

園　長

大豆田啓友先生の
「子育ての悩み解決　１００のメッセージ」より
「子どもの発達について」

> お出掛け前にトイレに誘っても「イヤ」、
> 公園から帰るときも「イヤ」とぐずってばかり。
> （２才５ヶ月・女児）

何に対しても「いや、いや」と反抗するのは２歳代の大きな特徴です。「反抗期」とも「わからんちんの２才児（魔の２歳児）」とも言われます。しかしそれは、断固として反抗しているわけではありません。ちゃんと子どもなりの理由があり、これこそ心の成長なのです。

２歳くらいになると、「自分はこうして遊びたい」というイメージや見通しがつくようになります。ところが、そこに大人から突然「トイレに行きなさい」「もうあそびは終わり、おうちに帰りましょう」等と言われると、イメージどおりにならず、受け入れるのが難しかったりして「嫌だ」と言うのです。これは自我が育ってきたことと大きく関係しています。

こうした時期は、子どものプライドを尊重してあげることが、多くの激しい衝突をまねかない秘訣だと言えます。一度おへそを曲げられると、手に負えなくなることもあるので、大人が一歩引いて「まあ仕方ないか」と聞き直れるとよいでしょう。子どもも、一度ちゃんと思いを受け止めてもらえると、納得してうまく切り抜けられるようになります。

☆怒るよりも、子どもを認めてあげる

避けたいのは、子どもの態度に耐えかねて、お母さんが正面からぶつかってしまうこと。怒っても逆効果なのです。それよりも「頑張っているね」と認めてあげると、子どもも早く切り上げることができます。

トイレに行きたがらないなら、「○○したら、次に△△できるよ」と見通しを付けてあげてはいかがでしょうか

あそびを切り上げるときには「さあ帰ろう」ではなく、あと１回滑り台を滑ったら帰ろうね」など、帰る目安を伝えて、子ども自身が踏ん切りを付けるきっかけを与えてあげるとよいかもしれません。

遊びを切り上げるときは、「さあ、帰ろう」ではなく、「あと１回すべりだいを滑ったら帰ろうね」など、帰る目安を伝えて、子ども自身が踏ん切りを付けるきっかけを与えてあげるとよいかもしれません。

怒らない方が良いとは言え、すくなからずの親子も自然にぶつかる者です。遊び半分、苦労半分という時期でしょう。こんな時に頼りになるもの苦労を分かち合えるママ友など。同じような育児の悩みを語り合い、ストレスを解消していきましょう。

> ときには子どもとぶつかってもＯＫ。でもエスカレート すると、後に尾を引くので、大人が一歩 譲って、深みにはまらない工夫を。